

社会科学習指導案

令和元年11月15日（金）第5校時
第1学年A組

授業の視点

元軍の襲来による御家人の生活の変化に関する資料をもとにして話し合う活動を取り入れたことは、元寇が武家政権にどのような影響を及ぼすできごとだったか、複数の資料を関連付けて考察する上で有効であったか。

I 題材名 第3章 中世の日本 ～ 第2節 東アジア世界との関わりと社会の変動 ～

II 題材の考察

(1) 生徒の実態 <…略…>

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の(3)「中世の日本」に基づき、中世の政治・外交に関わる内容を中心に構成されている。本来は、中世の武家政権の特色を世界の動きと関連付けて考察させる学習と、諸産業の発展と都市や農村の変化、民衆の活力が高まり新たな文化が誕生していく過程を学ぶ学習の2つから構成されているが、本単元では、あえてその2つの学習を別単元として設定することで、より我が国の中世の特色を整理して捉えさせることができると考える。また、政治・外交面の本単元、社会・文化面の次単元を行った後、両単元を結び付ける学習を取り入れることで、さらに中世に関しての学びを深めたいと考える。

さらに、単元を貫く課題を「中世の日本で、天皇や貴族に変わって登場した人々は、どのような政権をつくり、東アジア諸国とどのような関係を結んだのか。」と設定することで、生徒の主体的な学びを重視した問題解決学習を展開する。また、毎時間めあての中で課題を提示することで、一単位時間でも課題意識をもって追究活動に取り組ませるようにする。その際、教師が精選した資料を使用するが、日本だけでなく、東アジア諸国との関わりが分かるような資料を提示し追究させることで、東アジア諸国の中の日本を捉えられるようにしたい。また、資料精選と課題提示によって生徒は主体的に資料を読み取る活動に取り組むことができるので、資料活用能力も向上すると考えられる。武家政権の特色については、古代の天皇や貴族中心の政治の仕組みと比較検討し、友達に考えを発表する活動を取り入れることで、古代から中世へと時代が移り変わり、やがて江戸幕府が成立する近世へと進んでいく過程をより深く理解できると考える。

III 指導方針

(1) 単元を通して

- ・「つかむ」過程では、単元の課題を設定することで、追究活動に課題意識をもって取り組めるようにする。
- ・「追究する」過程では、武家政権の特色や東アジア諸国とのかかわりをとらえさせるような資料を提示することで、生徒に主体的に課題追究をさせる。
- ・「まとめる」過程では、単元の課題に対する答えを考えさせることで、中世の武家政権の特色を理解させるようにする。

(2) 一単位時間を通して

- ・「つかむ」過程では、本時のめあてに導くような資料を提示する。めあてには、本時で追究すべき課題、活動内容と視点、ねらいを達成した姿を盛り込むことで、生徒が主体的に追究活動に取り組めるように

する。

- ・「追究する」過程では、個別追究と集団追究の時間を設ける。資料をもとに個人で調べ学習に取り組んだ後、友達と意見交流を行うことで、自分一人では気付かなかった視点に気付かせるようにする。
- ・「まとめる」過程では、本時の課題に対する答えを短文でまとめるようにする。その際、本時に追究した事項を入れながら文を作るようにする。生徒同士で話し合わせたり教師と生徒が対話しながら一緒にまとめたりすることで、自分たちの言葉で本時追究した内容を表現させる機会を増やすようにする。また、振り返りでは、本時の学習で学んだことや考えたこと、もっと追究したいことなどを記述させることで、本時の自分の取組を振り返ることができるようにする。

(3) 授業中における生徒指導及び支援

【多面的な生徒理解の充実】

- ・個別追究の場面では机間指導を通して、生徒の学習状況を把握し、何を追究すればいいか悩んでいる生徒への助言や言葉かけを行う。

【自己存在感や自己決定を与える場の工夫】

- ・机間指導の際には、生徒のつぶやきやよい考えを教師が生徒に共有することで、集団追究やまとめの場面で学習を深める際役立てるようにする。

【共感的な理解ができる学級づくりの推進】

- ・生徒との問答を通して、生徒の多様な考えを共感的に受け止めるようにする。

IV 単元の目標

中世の日本について、社会的な変動を通して武家政治の特色をとらえ、武士が台頭し、古代から中世へ転換していく中で、東アジア世界と密接な関わりが見られたことについて考察する。

V 評価規準及び指導の計画概要 (全7時間)

評価規準	社会的事象への関心・意欲・態度	・中世の武家政治や東アジアの国際関係などに関心を持ち、個別追究や集団追究の場で意欲的に追究しようとしている。
	社会的な思考・判断・表現	・中世の武家政治や東アジアの国際関係などについて、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で適切に表現している。
	資料活用の技能	・中世の武家政治や東アジアの国際関係などについて、追究する上で必要な資料を選択し、読み取ったり図表にまとめたりしている。
	社会的事象についての知識・理解	・武家政権の成り立ちとその広まり、東アジア世界との密接なかわりを理解し、その知識を身に付けている。

(本時は4 / 7時間目)

過程	時	主な学習活動	評価				
			評価項目 (評価方法)	関	思	技	知
つかむ	1	○天皇や貴族にかわり、台頭した武士について調べる。 ○単元の課題を設定する。	◇武士について意欲的に追究し、単元の課題追究への感心を高めている。 (振り返り、発言)	○			
		【単元の課題】中世の日本で、天皇や貴族に変わって登場した人々は、どのような政権をつくり、東アジアの諸国とどのような関係を結んだのか。					
		○単元の課題について予想を立てることで、今後の追究活動の見通しをもつ。					

追 究 す る	2	○源平の争乱と武士政権の樹立の過程について、資料をもとに調べる。	◇武士が政治の中心になっていく過程を理解している。 (ワークシート、発言)				○
	3	○武家政権の特色について、これまでの時代の政権の資料と比較して調べる。	◇武家政権の仕組みを奈良や平安時代の政治の仕組みを表す資料と比較し、説明している。 (ワークシート、発言、振り返り)			○	
	4 本 時	○元の襲来によって武家政権にどのような変化が起きたか、資料をもとに調べ、考察する。	◇元寇や、その後の武士の生活の変化に関する資料などから、鎌倉時代の武家政権にどのような変化が起きたか考察し、自分の言葉で説明している。 (発言、ワークシート、振り返り)			○	
	5	○鎌倉幕府滅亡後の政治の変化、室町幕府の政治の仕組みを調べる。	◇鎌倉幕府滅亡後の政治の変化について、鎌倉時代と比較しながら追究することで、室町幕府の仕組みを理解している。(発言、ワークシート、振り返り)				○
	6	○室町幕府が、東アジア諸国とどのような外交を結んでいたか調べ、地図にまとめる。	◇日本の外交について、地図にまとめることで、古代に比べ広域になってきたことに気付いている。 (発言、ワークシート、振り返り)			○	
ま と め る	7	○応仁の乱後の全国の変化について、資料をもとに調べる。 ○単元の課題に対する答えをまとめる。	◇応仁の乱後の全国の様子を表した地図をもとに、戦国時代の守護大名の成長に気付いている。 ◇中世の日本の、武家政権の仕組みや東アジア諸国との国際関係について、自分の言葉でまとめている。 (発言、ワークシート、振り返り)			○	○

VI 本時の展開

(1) ねらい

元の襲来に関する資料をもとに、当時の鎌倉幕府の対応を調べることを通して、元寇が武家政権にどのような影響を及ぼすできごとだったかを考察する。

(2) 準備

(教師) 資料、ワークシート (生徒) 教科書、資料集、ノート

(3) 展開

学習活動 (「 」発問、○活動、生徒の反応)	時間 (分)	学習活動への支援及び指導上の留意点・評価 (◇は評価、○は支援、◎は「努力を要する」生徒への支援)
○単元の課題を確認する。 1. 本時の課題をつかむ。 「どんな場面の絵だろう。」 ・戦いの場面。 ・馬に乗っている人は武士かな。	7 分	○「蒙古襲来絵詞」を提示し、どんな場面か、自由に発言させる。その際、服装や装備品などの違いに目を向けさせるようにする。 ○火薬の使用(爆弾)集団戦法など、当時の日本にはない

<p>・左側の人たちは、服装からすると日本人ではないのかな。 「なぜ元軍と戦いになったのか予想しよう。」</p> <p>・元は日本を支配しようとしていたから。</p> <p>・日本に何かめあてのものがあつたのかな。</p> <p>「では、元軍と戦っているのは、どんな身分の人だろう。」</p> <p>・幕府と主従関係を結んだ御家人。 ・幕府のために戦っている。 ・2度も元を追い払ったのだから、御恩の領地はたくさんもらえたね。</p>		<p>兵法に気付かせるよう、言葉かけを工夫する。</p> <p>○なぜ、元と戦いになったか予想を立て、挙手で答えさせる。その際、当時の元の勢力範囲図やフビライの国書を提示することで、元が東アジア地域を支配しようとしていたことに気付かせる。</p> <p>○数名に発表させ、二度の元寇についておさえる。</p> <p>○御家人であることに気付かせ、既習の「御恩と奉公」について振り返らせる。</p> <p>○元寇後の御家人の生活を表す資料を提示することで、生徒が主体的に調べたいと感じるめあてに導く。</p>
<p>〈めあて〉元の襲来で、御家人の生活はどのように変化したか調べることで、元寇は武家政権にどのような影響をあたえるできごとだったのか考えよう。</p>		
<p>2. 追究する。</p> <p>【個別追究①】</p> <p>○元寇後の御家人の生活の変化について、ワークシートにまとめる。</p> <p>【集団追究①】班</p> <p>○班内で調べた内容を共有する。</p> <p>・元を追い払っただけなので、御恩としてもらえる土地はなかった。</p> <p>・戦いに関する費用は自己負担。そうとうなお金が必要だったな。</p> <p>・徳政令を見ると、貧乏になって土地を手放す御家人が出たのかな。</p> <p>【全体で情報を共有する】</p> <p>○資料から得た事実をクラス全体で共有する。</p> <p>【個別追究②】</p> <p>「では、元寇は武家政権にどのような影響をあたえたと考えられますか。」</p> <p>○資料から分かることをもとに、課題の答えを個人で考える。</p>	<p>7分</p> <p>6分</p> <p>5分</p> <p>5分</p>	<p>○御家人の生活の様子分かる資料を提示する。</p> <p>○マッピングで自由に記述させる。</p> <p>◎どの資料を選べばよいか悩んでいる生徒には、元寇によって御家人の生活の変化に着目できるような資料提示と発問を行う。</p> <p>○どの資料からどんなことが分かったか、資料を友達に提示しながら説明させるようにする。</p> <p>○友達から得た情報を色ペンで自分のワークシートに記入させることで深い学びにつなげる。</p> <p>○班で気付かなかつた情報がある場合は、ワークシートに書き込ませるようすることで、【個別追究②】の思考材料を増やす。</p> <p>○資料や調べたことをもとに、鎌倉幕府の「御恩と奉公」の関係が崩れてきていること、御家人が幕府に対して不満を募らせていることについて考察させる。</p> <p>◎悩んでいる生徒には、資料を提示し、事実から読み取れることを考えさせるような言葉かけを行う。</p> <p>○複数の資料を関連付けて、考えられることを導き出せるよう、言葉かけをする。また、考えをまとめた文章には、どの資料からどんなことが分かるかも触れて記述させる</p>

<p>【集団追究②】班</p> <p>○班で考えを共有し、本時の課題の答えを自分の言葉でまとめる。</p> <p>・鎌倉時代の幕府と御家人は、「御恩と奉公」という契約で結ばれた関係だから、これは契約違反。御家人は幕府に対して不満を持つようになったのではないか。</p> <p>・もしかしたら、元寇によってこの後幕府は滅亡してしまうかもしれない。</p>	<p>10分</p>	<p>ようにする。</p> <p>○考えをまとめさせる前に必ずめあてを確認し、本時の課題である「<u>元寇は武家政権にどのような影響をあたえたできごとだったか。</u>」に対する答えを考えさせる。</p> <p>○1人ずつ自分の考えを発表させる。その際、どの資料をもとにした考えなのかを入れて発表させることで、思考の根拠を明らかにするよう言葉かけをする。</p> <p>○班全員の発表が終わったら、もう一度全員で答えを考えさせる。</p>
<p>3. 全体でまとめる。</p> <p>○各班で課題の答えを発表する。</p>	<p>5分</p>	<p>○いくつかの班に発表させ、付け足しがある場合は挙手させるようにする。</p> <p>○黒板に班から出た情報を集約し、班内でも気付かなかった情報に気付かせるようにする。</p> <p>○自分で気付かなかった情報が出たら、ワークシートに書き加えるように指示する。</p>
<p>4. 振り返りをする。</p> <p>○ワークシートで振り返りをする。</p> <p>○振り返りを発表する。</p>	<p>5分</p>	<p>○本時のめあてについて自分の活動を振り返る。</p> <p>○今日は、班で元寇の武家政権への影響を考え、自分たちの言葉で表現する活動に取り組んだことを振り返ることで、思考・判断・表現に関する振り返りを引き出すようにする。</p>

評価項目 [社会的な思考・判断・表現]

◇元寇や、その後の武士の生活の変化に関する資料などから、鎌倉時代の武家政権にどのような変化が起きたか複数の資料を関連付けて考察し、自分の言葉で表現している。(集団追究での発言、個別追究のワークシート、振り返り)